

ロスキレ補助器具センター

お話 作業療法士 Ms. Inge Khur (インゲ・クア)
& Charlotte Nancke (シャーロット・ナンケ)

報告者：松本 和憲

きるように住宅改修を行い自立を支援すると共に、介護する人が楽に介護できるようにという考えを補助器具政策の基本になっています。



<トランスファーは人力ではなく補助器具で>

★プロ集団

補助器具センターには作業療法士、理学療法士、溶接や板金をこなす技術者など専門の技術、知識を持ったスタッフが働いています。

スタッフは貸し出しの他に補助器具の調達・回収・保守点検・改善・消毒・保管等の業務も行なっています。

器具を管理するだけでなく、補助器具の相談、利用用途にあったように改造もしています。利用者と直接話し合い、対話を通じて日常生活を知り、活動や生活の状況等を把握してからどのような物が必要でどのような物が合っているのかを選択し提供していきます。

★補助器具の考え方

補助器具は全て無償貸与(必要な人に必要な物を必要な期間だけ)となっており、車椅子・歩行器・杖・ベッド等の補助器具が約 5000 種類用意されています。障がいのある人を、社会の一員として出来る限り自分の住み慣れた家で生活がで

★日本とデンマークの違い

日本では障がい者も高齢者やってもらうことに慣れており、それが障がい者に対し「お世話をする・面倒をみてあげる」などのような生活をしたいかを聞くと、障がい者になっても自分で生活をして行きたいと願っていると言います。それが人としての尊厳でもあると考えられています。

★補助器具センターを訪問して…

日本でも補助器具はかなり取り入れられているという事もありますが、日本にはなじみの物もたくさんありました。つえや歩行器、車椅子用クッションやマット等、高さや幅・弾力性等、微妙な違いがある物が数多くあり一つの器具に対しての補助具の幅や量に圧倒されました。

これは何に使うのだろう！という物もたくさんありましたが、「こんな物まで貸し出しするのか！」と驚く物も多くあり、日本にも取り入れられたら少しでも自立できる人は多くなるだろうと感じました。それに日本より補助器具の幅がひろく、眼鏡、コンタクトレンズ、レコーダー等の現金給付も公費負担で支給し、障がい者用の自動車も住宅改造も自宅用のエレベーターも補助器具として公費負担をしているところが、デンマークの福祉なのだと感じさせられました。